

No.	項目	内容	図書館システムや各参加機関で必要となる対応	確認日
1	新規データのプレフィックス変更	<p>新NACSIS-CAT開始以降（2023年1月以降を予定）の新規データについて、全データセット（図書誌／所蔵、雑誌誌／所蔵、典拠、参照データ）のプレフィックスの変更を行います。</p> <p>*プレフィックスとは、データID (<a href="https://catill.bitbucket.io/CM/2_1_1.html">https://catill.bitbucket.io/CM/2_1_1.html</a>) 先頭2桁のアルファベットのことで。</p> <p>新NACSIS-CATで使用予定のプレフィックスは「別紙 新NACSIS-CAT使用予定プレフィックス一覧」をご覧ください。</p>	<p>新NACSIS-CAT開始以降、お使いの図書館システムで「新NACSIS-CAT使用予定プレフィックス一覧」にしたがって、新たに付番されるIDが取り扱えるように、ご対応ください。</p> <p><b>新NACSIS-CAT使用予定プレフィックス一覧 (2022/6追記)</b></p> <p><a href="https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-07/nacsis-cat_prefix.pdf">https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-07/nacsis-cat_prefix.pdf</a></p>	2021年12月時点 2022年6月変更
2	CATP/1.1スキーマバージョン1以前のサポート内容変更	<p>新NACSIS-CATでは、CATP1.1 スキーマバージョン2のサポートを中心とし、より古いバージョン（CATP1.0、CATP1.1 スキーマバージョン1）へのサポート内容を以下の通り変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検索以外のすべての操作がエラーとなる</li> <li>・ 検索した場合に上位のスキーマバージョンの値も返戻される</li> </ul> <p>返戻される項目は以下の「8 スキーマバージョン定義」をご覧ください。 <a href="https://catill.bitbucket.io/CATP/catp1.1/CATP_1_1_changed.html">https://catill.bitbucket.io/CATP/catp1.1/CATP_1_1_changed.html</a></p> <p>CATP1.1 スキーマバージョン2をリリースして20年近くが経過しておりますため、何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>	<p>上記制約の上で、CATP1.0、CATP1.1 スキーマバージョン1を継続して使用することはできますが、CATP/1.1 スキーマバージョン1以下のシステムをご利用の機関におかれましては、CATP/1.1 スキーマバージョン2以降への対応についてご検討ください。</p> <p>※ニュースレターでは「図書館システムや各参加機関で必要となる対応」を「アナウンス」の下に掲載しますので、「上記」としてあります。</p>	2021年12月時点

No.	項目	内容	図書館システムや各参加機関で必要となる対応	確認日
3	RELATIONの提供様式の変更	<p>CAT2020にて提供を開始しましたRELATIONにつきまして、旧システムでは日次のRELATION作業を行っていますが、新NACSIS-CATでは、登録された書誌データに対し、より高頻度でのクラスター化作業を行い、RELATION機能を向上します。</p> <p>高頻度のクラスター化作業に対応するため、新NACSIS-CATでは、グループID (FID) が一意ではなくなります。</p> <p>旧システムでは、一つのFIDのもとに、RELATION対象である書誌IDが追加・削除されますが、新NACSIS-CATでは、クラスター化作業ごとに、適宜書誌IDが属するFIDが付け替わります。</p> <p>現行のFIDの仕様につきましては、以下のRELATIONの項目をご覧ください。 データベースフィールド定義 <a href="https://catill.bitbucket.io/jissou_siyo/table_home.html">https://catill.bitbucket.io/jissou_siyo/table_home.html</a></p>	<p>これまでRELATIONや、RELATIONデータに含まれるFIDを使用したサービスを運用されていた機関におかれましては、システムへの実装方法の変更が発生する可能性がありますので、ご調整いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>	2021年12月時点
4	Z39.50クライアント機能における利用可能なデータベースの変更	<p>Z39.50クライアント機能 (<a href="https://contents.nii.ac.jp/catill/about/cat/infocat/z3950">https://contents.nii.ac.jp/catill/about/cat/infocat/z3950</a>) で検索対象とする、ドイツ語書誌データベースをHBZ (Hochschulbibliothekszenrum des Landes Nordrhein-Westfalen: ノルトライン-ヴェストファーレン州大学図書館センター) からGBV (Gemeinsamer Bibliotheksverbund : 共同図書館ネットワーク) へ変更します。</p> <p>GBVは、1982年に設立されたドイツ7州からなる共同ネットワークでK10plusというユニオンカタログを提供しています。</p> <p>K10plusは6500万件を超える図書、会議資料、逐次刊行物、学位論文、マイクロフィルム、電子資料の書誌情報を保有し、GBVとthe Library Network Southwest Germany (SWB) の1,000機関が参加しており、より幅広い書誌データの利用が可能となります。</p>	<p>新NACSIS-CAT開始後、お使いの図書館システムで新たなデータベースがご利用可能となるように、クライアントのためのガイドライン案にしたがって、参照データセット名の変更及び検索語指定可能フィールド等の設定変更を行ってください。</p> <p>K10Plusの接続利用のガイドライン案 (2022年10月31日時点) (2022/12追記)</p> <p><a href="https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/catill/client_guidelines">https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/catill/client_guidelines</a></p> <p>K10Plusの接続利用のガイドライン (2023/6追記)</p>	<p>2021年12月時点 2022年12月変更 2023年6月変更</p>
5	CATPの「SEARCH」メソッドの制約追加	<p>Database-namesの指定 (<a href="https://catill.bitbucket.io/CATP/catp/chap404.html">https://catill.bitbucket.io/CATP/catp/chap404.html</a>) において、これまではCATのデータセットとILLのデータセットの混在が許容されていましたが、新NACSIS-CATでは許容されなくなります。</p>	<p>本件は、ほとんどの図書館システムでは問題とならないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。</p>	2021年12月時点

No.	項目	内容	図書館システムや各参加機関で必要となる対応	確認日
6	Z39.50ゲートウェイ機能のSRUゲートウェイ機能への変更	<p>Z39.50ゲートウェイ機能 (<a href="https://contents.nii.ac.jp/catill/project_reference/reference/project/z3950_gw/z3950_gw">https://contents.nii.ac.jp/catill/project_reference/reference/project/z3950_gw/z3950_gw</a>) について、Z39.50 (ISO 23950) がWeb普及以前の古い規格で、技術者を確保し継続的にメンテナンスを行うことが困難となっております。そのため、新NACSIS-CATでは、Z39.50ゲートウェイ機能の提供を停止し、後継規格でありHTTP/HTTPS上で動作するSRU* (Search/Retrieve via URL) ゲートウェイ機能の提供を開始します。</p> <p>* SRUに関する説明は以下をご参照ください： <a href="http://www.loc.gov/standards/sru/index.html">http://www.loc.gov/standards/sru/index.html</a></p> <p>なお、上記理由から、新NACSIS-CATでのZ39.50ゲートウェイ機能とSRUゲートウェイ機能の並行稼働は予定しておりませんのでご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>SRUゲートウェイ機能の申請日につきましては、調整後、以下にて通知いたします。 <a href="https://contents.nii.ac.jp/korekara/news">https://contents.nii.ac.jp/korekara/news</a></p>	<p>本仕様にかかる機能を用いている場合は、SRUの仕様案を以下にて公開しておりますので、ご参照の上、対応をご検討いただければと存じます。</p> <p>新NACSIS-CAT SRU仕様解説</p> <p>日本語版： <a href="https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-07/nacsis-cat_sru_jpn.pdf">https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-07/nacsis-cat_sru_jpn.pdf</a></p> <p>英語版： <a href="https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-07/nacsis-cat_sru_eng.pdf">https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2022-07/nacsis-cat_sru_eng.pdf</a></p>	2022年6月時点
7	エンコーディングをUTF8、UTF8Eのみに変更	<p>データは、国際的なデータ流通を行いやすくすることや、海外製のパッケージを用いる制約から、システム内で取り扱うエンコーディングを「UTF8、UTF8E」*のみとし、その他のエンコーディングには対応しないことといたします。</p> <p>* UTF8, UTF8Eに関する説明は以下をご参照ください： <a href="https://contents.nii.ac.jp/catill/manuals/system/cat_ill/client/vista">https://contents.nii.ac.jp/catill/manuals/system/cat_ill/client/vista</a></p> <p>UCS外字の取り扱いについて (2022/12追記) 本変更にともない、UCS外字 (◆Unnn◆) への対応も停止します。</p> <p>* UCS外字仕様に関する説明は以下をご参照ください： <a href="https://catill.bitbucket.io/jissou_siyo/ucs-gai.html">https://catill.bitbucket.io/jissou_siyo/ucs-gai.html</a> →UCS外字の取り扱いについては項番12に移行 (2023/6追記)</p>	<p>本件は、事前に図書館システムベンダー各社へ確認を行い、問題とならない (または対応予定である) との回答を得ています。しかし、図書館システムを買い取り運用されている場合等で、UTF8、UTF8E以外 (JIS7等) のエンコーディングを使用している可能性がある場合は、ご調整いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>	2022年6月時点 2022年12月変更 2023年6月変更

No.	項目	内容	図書館システムや各参加機関で必要となる対応	確認日
8	Z39.50クライアント機能における利用可能なデータベースの追加	<p>Z39.50クライアント機能 ( <a href="https://contents.nii.ac.jp/catill/about/cat/infocat/z3950">https://contents.nii.ac.jp/catill/about/cat/infocat/z3950</a> ) で検索対象とする、フランス語書誌データベースにSudoc (Système universitaire de documentation、大学記録システム) を追加します。</p> <p>Sudocは、高等教育書誌作成機関 (ABES) が作成したフランスの総合目録です。Sudocは1,300万件を超える図書、雑誌、電子資料、視聴覚資料、マイクロフィルム、地図、スコア、写本を含む書誌情報が登録されています。</p> <p>Sudocの参照データセット名は図書目録データ「SUDOCB」、雑誌目録データ「SU DOCS」を使用予定です。検索語指定可能フィールド等の仕様につきましては、以下をご覧ください。</p> <p>「クライアントのためのガイドライン案」中の「新NACSIS-CAT Z39.50クライアント機能」</p> <p><a href="https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/catill/client_guidelines">https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/catill/client_guidelines</a></p>	<p>新NACSIS-CAT開始後、「クライアントのためのガイドライン案」にしたがって、参照データセット名の変更及び検索語指定可能フィールド等の設定変更を行うことで、お使いの図書館システムで新たなデータベースがご利用可能となります。</p> <p>Sudocの接続利用のガイドライン(2023/6追記)</p> <p><a href="https://contents.nii.ac.jp/catill/about/cat/infocat/z3950/z3950_sudoc">https://contents.nii.ac.jp/catill/about/cat/infocat/z3950/z3950_sudoc</a></p>	<p>2022年12月時点</p> <p>2023年6月変更</p>
9	空更新時の動作の変更	<p>旧システムでは、既存データに何も修正をせずに「保存」(空更新)を行う場合もRNWDTとRNWFAが更新されますが、新NACSIS-CAT開始以降、既存データに何らかの変更が行われた場合のみ、RNWDTとRNWFAが更新されます。</p>	<p>本件は、ほとんどの図書館システムでは問題とならないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。</p>	<p>2022年12月時点</p>
10	RECONのCRTDTとRNWDTの変更	<p>新NACSIS-CATでは、RECONのCRTDTとRNWDTに表示される値が「19700101」の固定値になります。</p>	<p>本件は、ほとんどの図書館システムでは問題とならないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。</p>	<p>2022年12月時点</p>

No.	項目	内容	図書館システムや各参加機関で必要となる対応	確認日
11	日本名標目形における付記事項の記述文法変更	<p>旧システムの日本名標目形の付記事項にかかる記述文法では、丸ガッコの前にスペースを入力しません。</p> <p>新NACSIS-CATでは、日本名、日本名以外ともに、姓と名が「,△」で区切られている個人名は、名称△(付記事項)  名称ヨミ (△はスペース) に変更します。登録時にスペースなしで登録した場合、サーバ側でスペースを補い登録します。</p> <p>団体名や、ペンネームなどで姓と名の区別がつかず、姓と名が「,△」で区切られていない個人名は、丸ガッコの前にスペースを入れずに登録しようとした場合、エラーメッセージが表示されますので、丸ガッコの前にスペースを入れるようにしてください。</p> <p>団体名等で付記事項の丸ガッコの前にスペースが入っていない著者名典拠データ、統一書名典拠データについては、NIIで丸ガッコの前にスペースを入れる修正を行います。</p> <p>なお、改訂版のコーディングマニュアルが適用されると、日本人の個人名、団体名等も、付記事項（改訂版では「識別要素」）との区切りが「,△」になります。</p>	<p>本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。</p>	<p>2022年12月時点 2024年5月変更</p>
11	日本名標目形における付記事項の記述文法変更（続き）	<p>&lt;対象&gt;となるフィールドは以下です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AHDNG、AHDNGR、AHDNGVR</li> <li>・ UTHDNG、UTHDNGR、UTHDNGVR</li> <li>・ HDNGD、HDNGR、HDNGVR</li> <li>・ SAFD、SAFR、SAFVR</li> <li>・ SFD、SFR、SFVR</li> </ul>	<p>本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。</p>	<p>2022年12月時点 2024年5月変更</p>

No.	項目	内容	図書館システムや各参加機関で必要となる対応	確認日
12	UCS外字の取り扱いの変更	<p>UCS外字の取り扱いが変更になりました。詳細は以下のページをご参照ください。  <a href="https://contents.nii.ac.jp/catill/manuals/system/cat_ill/client/vista">https://contents.nii.ac.jp/catill/manuals/system/cat_ill/client/vista</a></p> <p>①サロゲートペア文字（UTF-8の1文字が4バイトとなる文字）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●入力する場合（リクエスト） 「◆Unnnn◆◆Unnnn◆」で入力すれば、文字をUCS1文字に変換する。</li> <li>●表示、ダウンロードする場合（レスポンス） UTF8：サロゲートペア文字を「◆」で囲んで入力返します。 UTF8E：サロゲートペアの文字をUTF-16エンコーディングでAPI 応答として返します。</li> </ul> <p>例：「丈」（◆UD840◆◆UDC0B◆）の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「◆UD840◆◆UDC0B◆」と入力した場合、「丈」には変換され「丈」として登録される。</li> <li>2. 「丈」と入力した場合、「丈」がそのまま登録される。</li> </ol>	<p>本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。</p>	2023年6月作成
	UCS外字の取り扱いの変更（続き）	<p>②サロゲートペア文字以外の文字</p> <p>「◆」で囲んで入力した場合、正しい文字への変換は行われませんので、対応する文字を直接入力するようにしてください。</p> <p>例：「崑」（◆U3402◆）の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「◆U3402◆」と入力した場合、「崑」に変換されず、「◆U3402◆」がそのまま登録される。</li> <li>2. 「崑」と入力した場合、「崑」がそのまま登録される。</li> </ol>		
13	前方一致検索の仕様変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧システムでは、2文字以上の文字列の直後に「*（アスタリスク）」を付すことでキーワードの前方一致検索が可能でしたが、新NACSIS-CATでは、1文字の直後に「*（アスタリスク）」を付すことでも前方一致検索が可能になりました。</li> <li>・旧システムでは、LCCN等のコードフィールドの前方一致検索が不可でしたが、新NACSIS-CATでは、LCCN等のコードフィールドでも前方一致が可能になりました。</li> </ul>	<p>本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。</p>	2023年6月作成

No.	項目	内容	図書館システムや各参加機関で必要となる対応	確認日
14	LCCNの検索仕様の変更	旧システムでは、LCCNについて以下のような検索ができませんでしたが、新NACSIS-CATでは検索可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレフィックス後のスペースが全角 (gs 04000002)</li> <li>・プレフィックス後のスペースがない (gs04000002)</li> <li>・プレフィックスが大文字 (GS04000002)</li> <li>・プレフィックス後のスペースがなく、全体が全角文字 (G S 0 4 0 0 0 0 2)</li> </ul>	本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。	2023年6月作成
15	雑誌所蔵データのHLVでの絞り込み検索の仕様変更	ILL業務等で行われる、雑誌所蔵データのHLVでの絞り込みにおいて、所蔵データが2階層のものを巻レベルのみで指定すると、不完全巻でも（欠号があっても）ヒットするようになりました。  例： （所蔵館A）HLV：36,37(1-19,21-24,26),38 （所蔵館B）HLV：36-38  ●旧システム HLVの絞り込み値：37で検索→（所蔵館B）しかヒットしない。  ●新NACSIS-CAT HLVの絞り込み値：37で検索→（所蔵館A）、（所蔵館B）がヒットする。	本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。	2023年6月作成
16	参照MARCの親書誌の作成の中止	参照MARCの子書誌のデータから新しい親書誌のデータを作成しなくなりました。	本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。	2023年11月作成
17	ステータスコード一覧	ステータスコード一覧を更新し、新システムでは使用していないステータスコードを削除しました。	本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。	2023年11月作成
18	重複統合の連絡方法の変更	図書書誌、雑誌書誌について、重複書誌を統合した場合、旧システムでは、所蔵付替報告を、3か月ごとにレコード調整で連絡しておりましたが、新システムでは、週1回程度の頻度で、参加組織情報のEMAILフィールドのBOOKコード（BOOKがなければコードなし）のメールアドレス宛に連絡いたします。これに合わせ、レコード調整の連絡頻度は6か月に1度に変更します。	本件は、ほとんどの図書館システムでは問題としないことを確認しておりますが、本仕様にかかる機能を用いている可能性がある場合は、ご確認、ご対応いただければと存じます。	2023年11月作成 2024年5月変更

※2023/1/31の新NACSIS-CATシステム稼働開始に伴い、「現行システム」→「旧システム」、「次期システム」→「新NACSIS-CAT」の文言変更を行った。（2023/6/30追記）